

Listen to the Great

インタビュー

後藤文男

Fumio Gotob

慶應義塾大学 名誉教授

慶應義塾大学医学部内科学教室 同窓会会長

公益財団法人脳血管研究所美原記念病院 理事

公益信託美原脳血管障害研究振興基金 運営委員長

老年期認知症研究会 会長

Medical Briefs in Brain & Nerve 編集委員長



■ 主な学会活動

- ◎日本頭痛学会 名誉会員 (第16回頭痛研究会会長)
- ◎日本神経学会認定医・神経内科専門医
(第28回日本神経学会総会会長)
- ◎日本脳卒中学会 名誉会員
(第14回日本脳卒中学会会長・先々代 日本脳卒中学会
理事長)

経済学部を辞め、改めて医学部を受験

鈴木 本日は、日本の頭痛研究、頭痛診療を牽引されてきた、いわば日本頭痛学会の恩人である後藤文男先生をお招きしました。頭痛をめぐるお話だけでなく、学生時代のことから、医学・医療の将来展望などについて、幅広くお話しいただきたいと思います。はじめに、後藤先生が医学を志されたきっかけをお聞かせください。

後藤 実は、あまり自慢できる話ではありません。進学にあたって、父に「慶應義塾大学を受験するなら経済学部が良いと思う」と言われました。「理科系は好きだが経済は好きではない」と答えると、「これからの経済は数量だ、数量経済を学べば第一人者になれる」ともっともらしく説得されて、最初はその通り経済学部に入ったのです。

しかし当時の慶應義塾大の経済学部は完全なる文系

で、特に数学の先生は、文系学生の数学教育にはあまり興味がないようでした。唯一、哲学の山本万二郎先生の論理学の講義だけは面白く、その論理の教えは今でも思考・研究・臨床をはじめあらゆる面で実際の役に立っています。

3ヵ月後、論理学の講義が終わったところで、私は大学を辞めました。しかし当時は、学生でなくなれば徴用にとられてしまいます。父からは大学に戻るようすすめられ、山本先生にも親切に配慮していただきましたので、翌年もう一度試験を受けることにしました。

鈴木 経済学部を受け直したのですか。

後藤 経済学部、理工学部の前身である藤原工業大学、そして医学部を受けました。全部合格してしまって逆に困りました。

鈴木 さすが後藤先生ですね。

後藤 医学部の面接の日はちょうど徴用の日と重なって、どうしようかと迷っていると、普段はおとなしい